

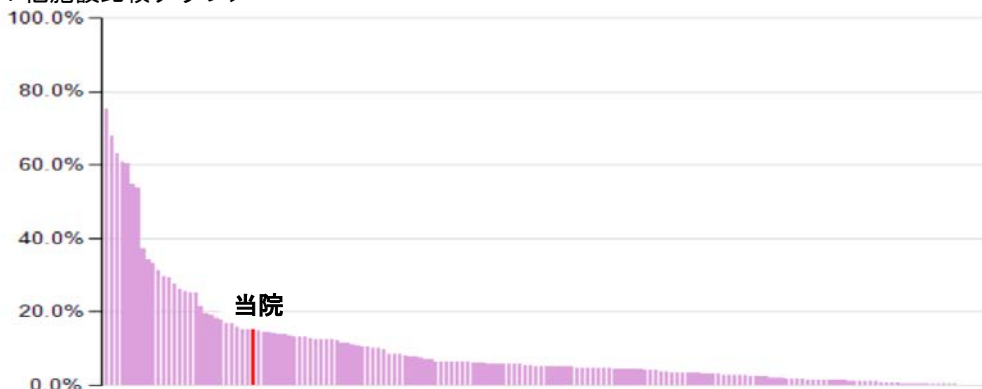
診療情報管理委員会ニュース

(臨床指標報告)

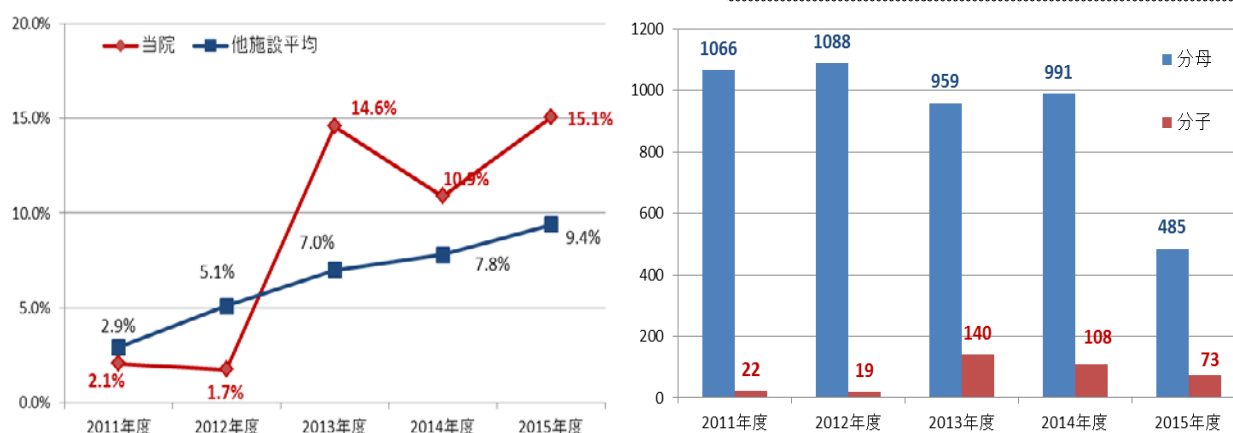
VOL. 22 2016年1月 診療情報管理委員会

【悪性腫瘍症例に対する退院支援割合】

<①2014年度：他施設比較グラフ>



<年度別の ②割合推移（他施設比較）／③分母分子数推移> ※2015年度：4月～9月までの半年分データです



<出力方法> QIP データ使用 ※期間症例 10 症例未満の病院は除外

分母：医療資源を最も投与した傷病名に、ICD-10 コードとして C・D のコードが含まれる症例

分子：退院調整を行った（＝各退院調整加算を算定している）症例

【定義】

●悪性腫瘍は長期間の療養を要する症例も多く、在宅療養に向けた体制作りを早期から始めることが求められています。ただし、必ずしも全ての患者さんに対して退院支援を要するわけではないため、100%を目指す指標ではありませんのでご注意ください。

【結果】

●他施設比較のグラフを見ると、特筆して高い割合に位置しているとは言い難い。しかし、当院と他施設平均との年度推移を見ると、退院調整割合が年々高くなっており2013年度からは、他施設平均を上回る形で推移している事が分かる。

●2015年度は、4月～9月までの半年間でのデータという事をふまえても、分母分子ともに増加傾向となっていることが分かる。

●定義にも記載しているが、必ずしも全ての患者さんが退院支援を要する訳では無いため、この指標をさらに展開させていくのであれば、要支援の患者さんの内どれだけ対応できたのか、という事に焦点を当てる必要がある。